

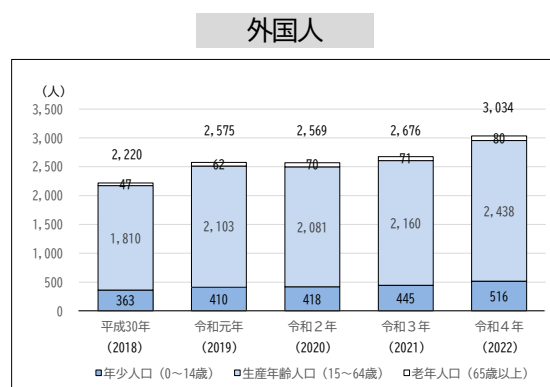
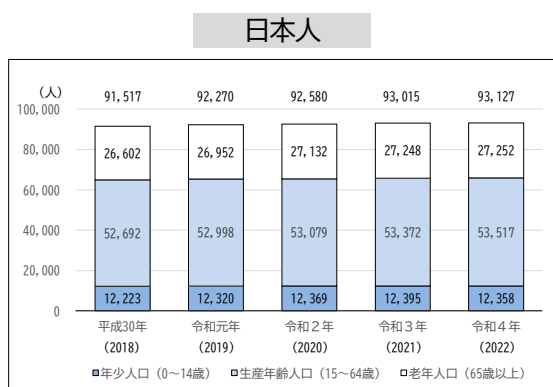
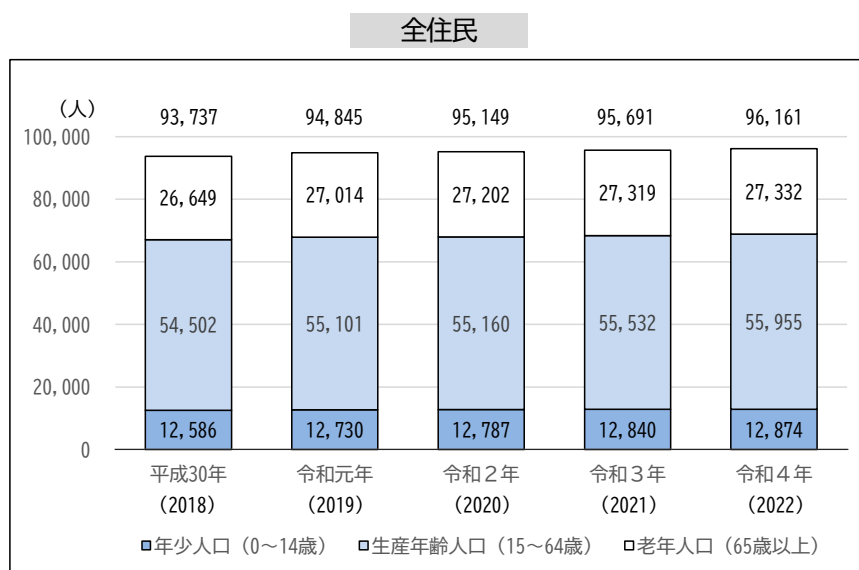
第3章 四街道市の教育に関する現状

1. 人口等の現状

(1) 年齢三区分別人口の推移

人口の推移をみると、一貫して増加傾向にあり、平成30年の総人口93,737人から令和4年では96,161人となっています。

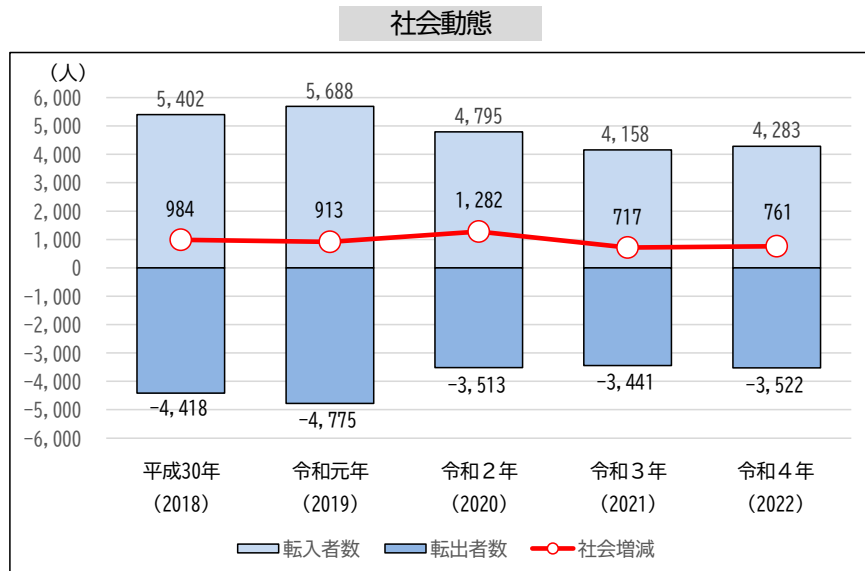
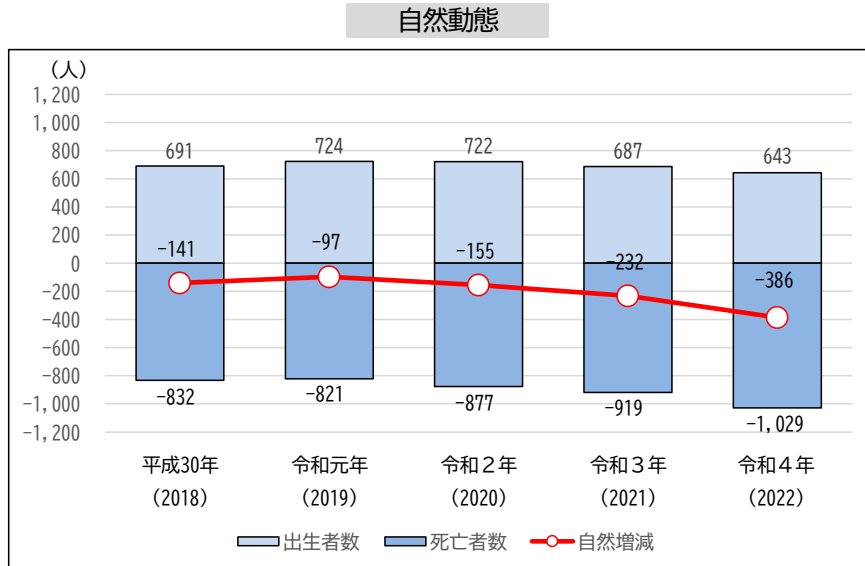
年齢三区分別に比較すると、年少人口、生産年齢人口、老年人口のいずれも増加となっており、年少人口及び生産年齢人口では、外国人の増加が進んでいます。



資料：四街道市人口統計（各年10月1日現在）

(2) 人口動態

自然動態をみると、自然減の状態が続いており、出生者数は減少傾向、死亡者数は増加傾向となっています。社会動態をみると、社会増の状態が続いていますが、転入者数及び転出者数はいずれも減少傾向となっています。



資料：千葉県毎月常住人口調査

※各年における数値は、当年1月1日から翌年1月1日までの合計を示しています。

2. 児童生徒の現状

(1) 小学校の児童数の推移

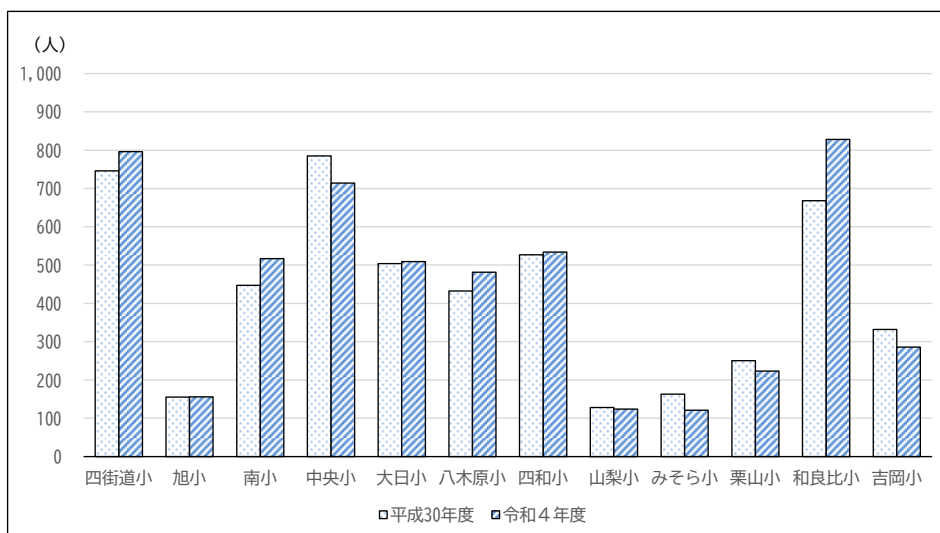
小学校の児童数の推移をみると、総数は増加傾向にあります。

平成30年度と令和4年度の児童数を小学校別に比較すると、四街道小・南小・八木原小・和良比小は増加、旭小・大日小・四和小・山梨小は横ばい、中央小・みそら小・栗山小・吉岡小は減少となっています。

小学校：児童数

小学校	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	増減数 (2018→22)
四街道小	746	776	776	768	796	50
旭小	155	172	179	163	156	1
南小	447	453	459	491	517	70
中央小	785	790	770	767	714	-71
大日小	504	514	505	516	509	5
八木原小	432	429	432	469	481	49
四和小	527	539	547	528	534	7
山梨小	128	124	120	122	124	-4
みそら小	163	140	128	121	121	-42
栗山小	250	236	228	219	223	-27
和良比小	668	684	732	760	828	160
吉岡小	332	330	317	302	286	-46
総数	5,137	5,187	5,193	5,226	5,289	152

各年度 5月1日現在



(2) 中学校の生徒数の推移

中学校の生徒数の推移をみると、総数は増加傾向にあります。

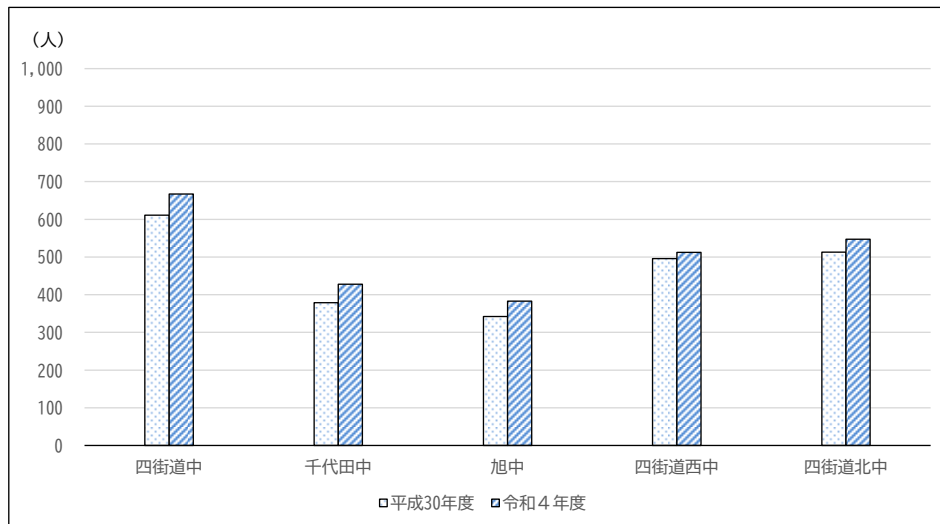
平成30年度と令和4年度の生徒数を中学校別に比較すると、四街道中・千代田中・旭中・四街道西中・四街道北中のいずれの中学校も増加となっています。

中学校：生徒数

(人)

中学校	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	増減数 (2018→22)
四街道中	611	624	622	651	667	56
千代田中	379	374	404	422	428	49
旭中	342	365	353	375	383	41
四街道西中	496	482	485	501	512	16
四街道北中	513	514	534	532	547	34
総数	2,341	2,359	2,398	2,481	2,537	196

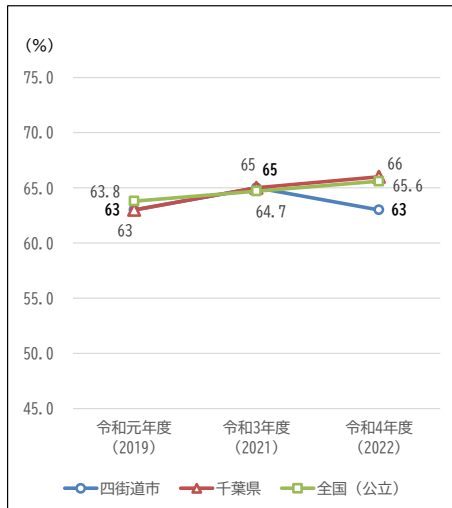
各年度 5月1日現在



(3) 全国学力・学習状況調査の結果

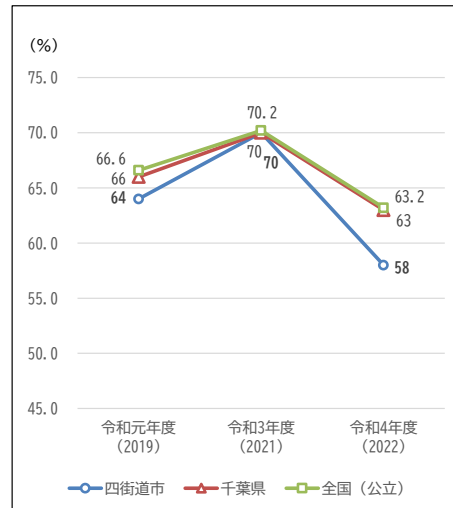
小学校6年生（国語・算数）と中学校3年生（国語・数学）の平均正答率の推移をみると、千葉県及び全国と同様なグラフの動きを示しており、令和元年度以降、中学校3年生の数学の学力は低下傾向となっています。

小学校6年生：国語



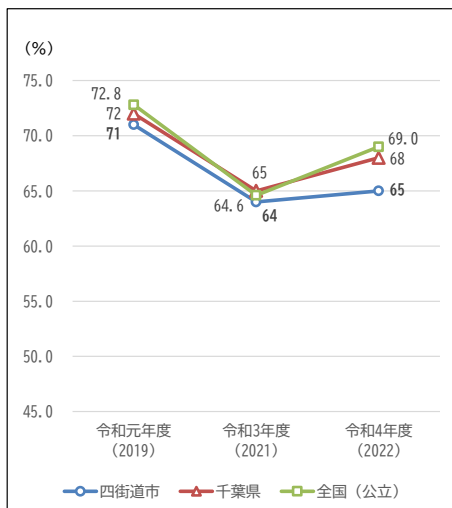
区分	単位 (%)	令和元年度 (2019)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
国語	四街道市	63	65	63
	千葉県	63	65	66
	全国 (公立)	63.8	64.7	65.6

小学校6年生：算数



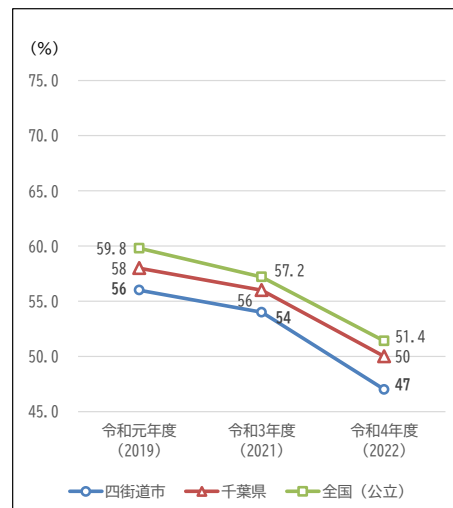
区分	単位 (%)	令和元年度 (2019)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
算数	四街道市	64	70	58
	千葉県	66	70	63
	全国 (公立)	66.6	70.2	63.2

中学校3年生：国語



区分	単位 (%)	令和元年度 (2019)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
国語	四街道市	71	64	65
	千葉県	72	65	68
	全国 (公立)	72.8	64.6	69.0

中学校3年生：数学



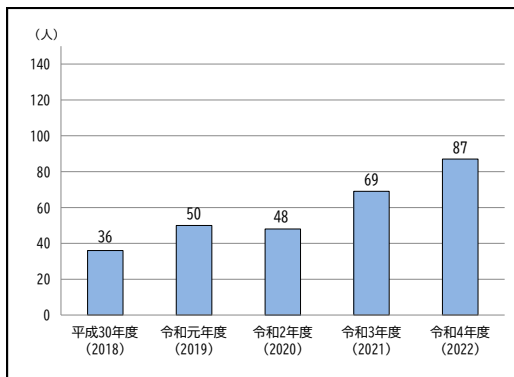
区分	単位 (%)	令和元年度 (2019)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
数学	四街道市	56	54	47
	千葉県	58	56	50
	全国 (公立)	59.8	57.2	51.4

※文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、市・県は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

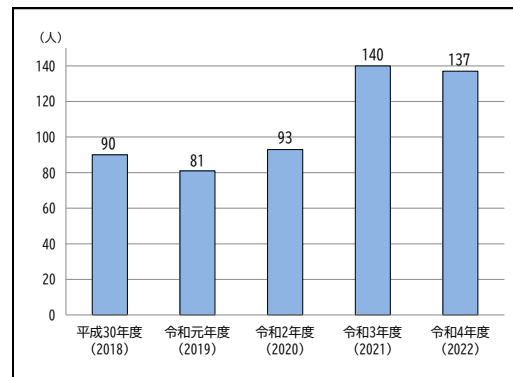
(4) 不登校児童生徒の状況

小学校の不登校児童数の推移をみると、その数値は増加傾向にあり、平成30年度と令和4年度を比較すると約2.4倍に増えています。中学校の不登校生徒数の推移をみると、その数値は増加傾向にあり、平成30年度と令和4年度を比較すると約1.5倍に増えています。不登校の割合をみると、千葉県及び全国と同様なグラフの動きをしており、令和2年度以降、特に不登校生徒の割合が高くなっています。

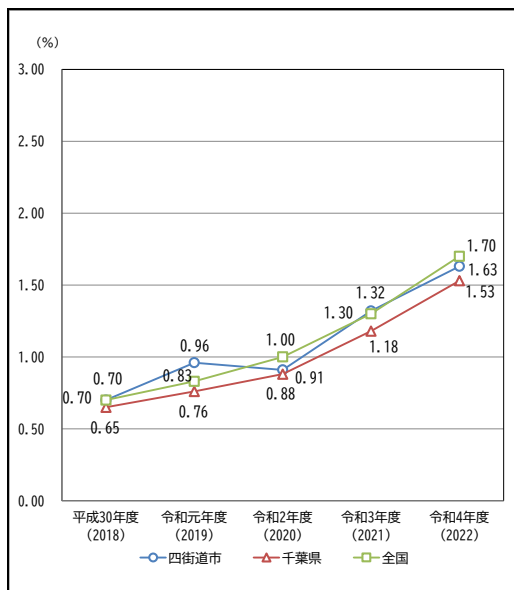
小学校：不登校児童数



中学校：不登校生徒数

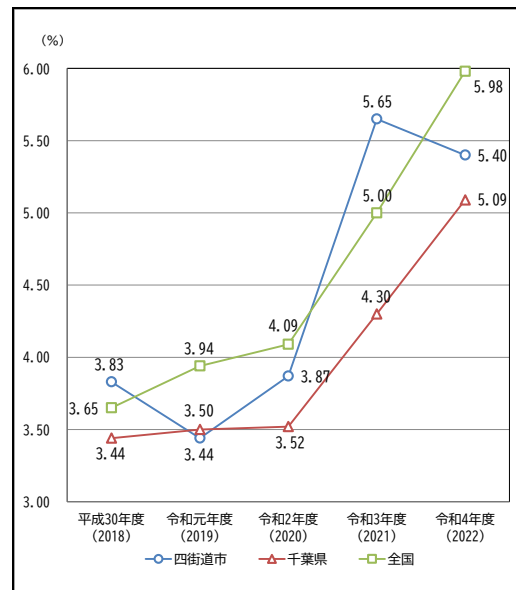


小学校：不登校児童の割合



単位 (%)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
四街道市	0.70	0.96	0.91	1.32	1.63
千葉県	0.65	0.76	0.88	1.18	1.53
全国	0.70	0.83	1.00	1.30	1.70

中学校：不登校生徒の割合



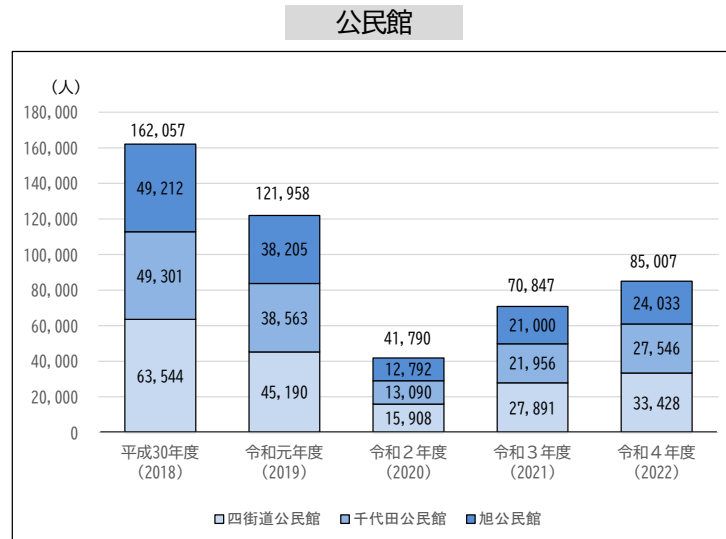
単位 (%)	平成30年度 (2018)	令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)
四街道市	3.83	3.44	3.87	5.65	5.40
千葉県	3.44	3.50	3.52	4.30	5.09
全国	3.65	3.94	4.09	5.00	5.98

資料：文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」

3. 生涯学習、スポーツ活動の現状

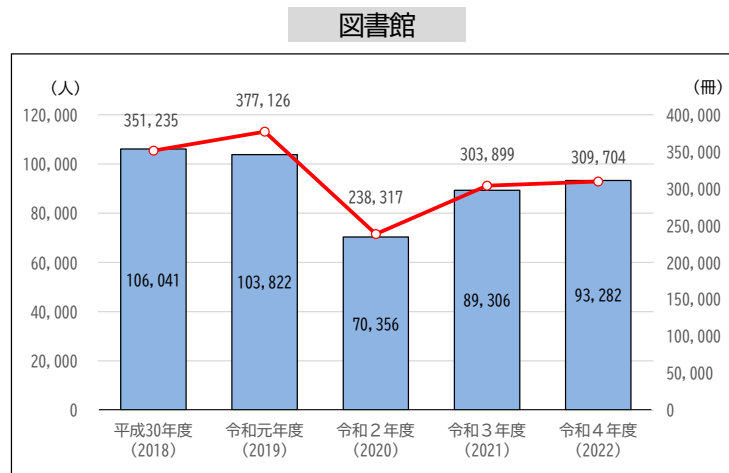
(1) 公民館（四街道公民館、千代田公民館、旭公民館）利用状況の推移

公民館の利用者数の推移をみると、平成30年度の162,057人から、令和2年度は41,790人と大きく減少しましたが、令和4年度では85,007人となっています。



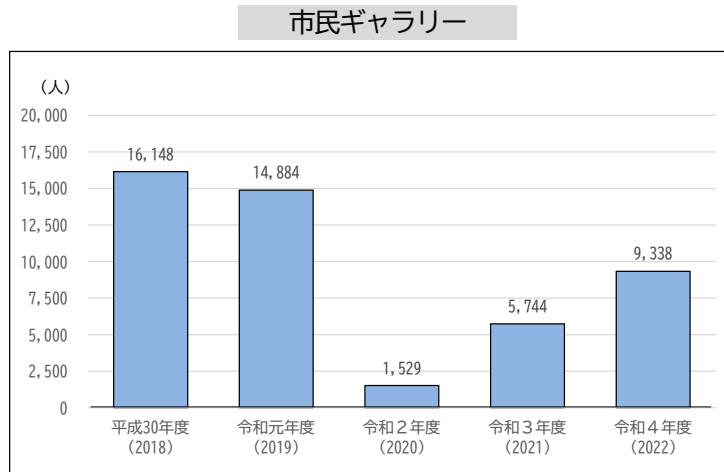
(2) 図書館利用状況の推移

図書館の利用者数や図書の貸出冊数の推移をみると、平成30年度の106,041人（351,235冊）から、令和2年度は70,356人（238,317冊）と大きく減少しましたが、令和4年度には93,282人（309,704冊）となっています。



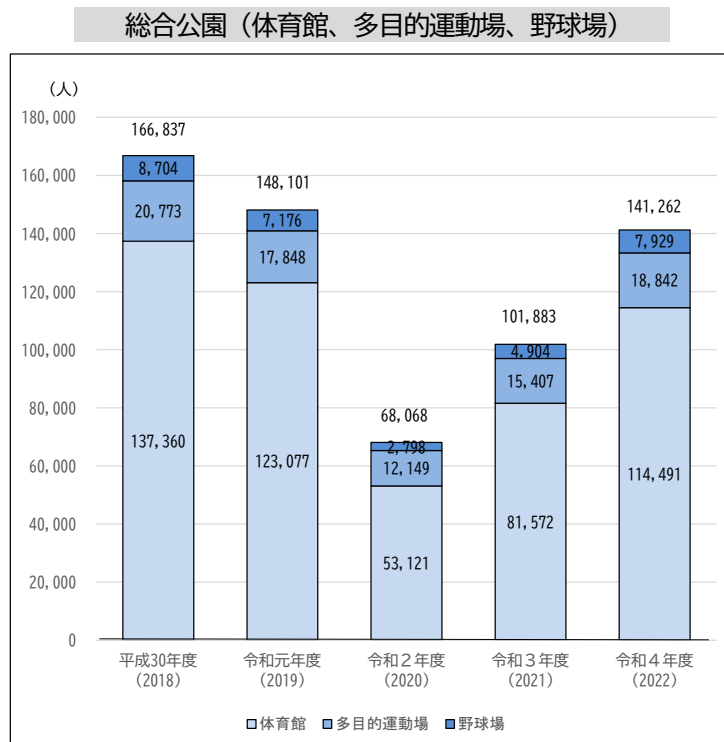
(3) 市民ギャラリー利用状況の推移

市民ギャラリーの利用者数の推移をみると、平成30年度の16,148人から、令和2年度は1,529人と大きく減少しましたが、令和4年度では9,338人となっています。



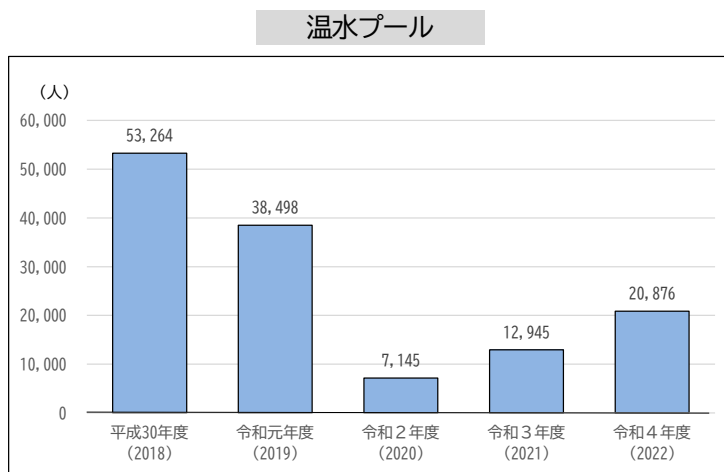
(4) 総合公園（体育館、多目的運動場、野球場）利用状況の推移

総合公園の利用者数の推移をみると、平成30年度の166,837人から、令和2年度は68,068人と大きく減少しましたが、令和4年度では141,262人となっています。



(5) 温水プール利用状況の推移

温水プールの利用者数の推移をみると、平成30年度の53,264人から、令和2年度は7,145人と大きく減少しましたが、令和4年度では20,876人となっています。



(6) 全体的な傾向

令和元年度以降について、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う休館や利用者制限の影響により、施設全般で利用者数が減少しましたが、各種活動の再開に伴い、現在は利用が回復傾向となっています。平成30年度と比較すると、図書館・総合公園（体育館、多目的運動場、野球場）では8～9割、公民館・市民ギャラリーでは5～6割、温水プールでは4割程の利用状況となっていますが、市民の生涯学習やスポーツ活動は、今後も増えていくことが予想されます。

4. アンケート調査結果からみる教育的ニーズや課題

(1) 調査の実施概要

計画策定及び今後の教育施策のための基礎資料とすることを目的に、児童・生徒、保護者、教職員及び市民を対象に教育に関するアンケート調査を実施しました。

調査対象	児童・生徒		保護者			教職員		市民	合計
	小学校 (5年生)	中学校 (2年生)	小学校 (5年生)	中学校 (2年生)	幼稚園・ 保育所等	小学校	中学校	18歳以上 の男女	
標本数	895人	830人	895人	830人	3,195人	334人	180人	2,000人	9,159人
抽出方法	悉皆							住民基本 台帳から の無作為 抽出	—
回収数	873人	593人	490人	342人	941人	240人	115人	743人	4,337人
回収率	97.5%	71.4%	54.7%	41.2%	29.5%	71.9%	63.9%	37.2%	47.4%
調査方法	インターネットで回答							インター ネット又 は郵送で 回答	—
調査期間	令和4年6月1日～6月30日								—

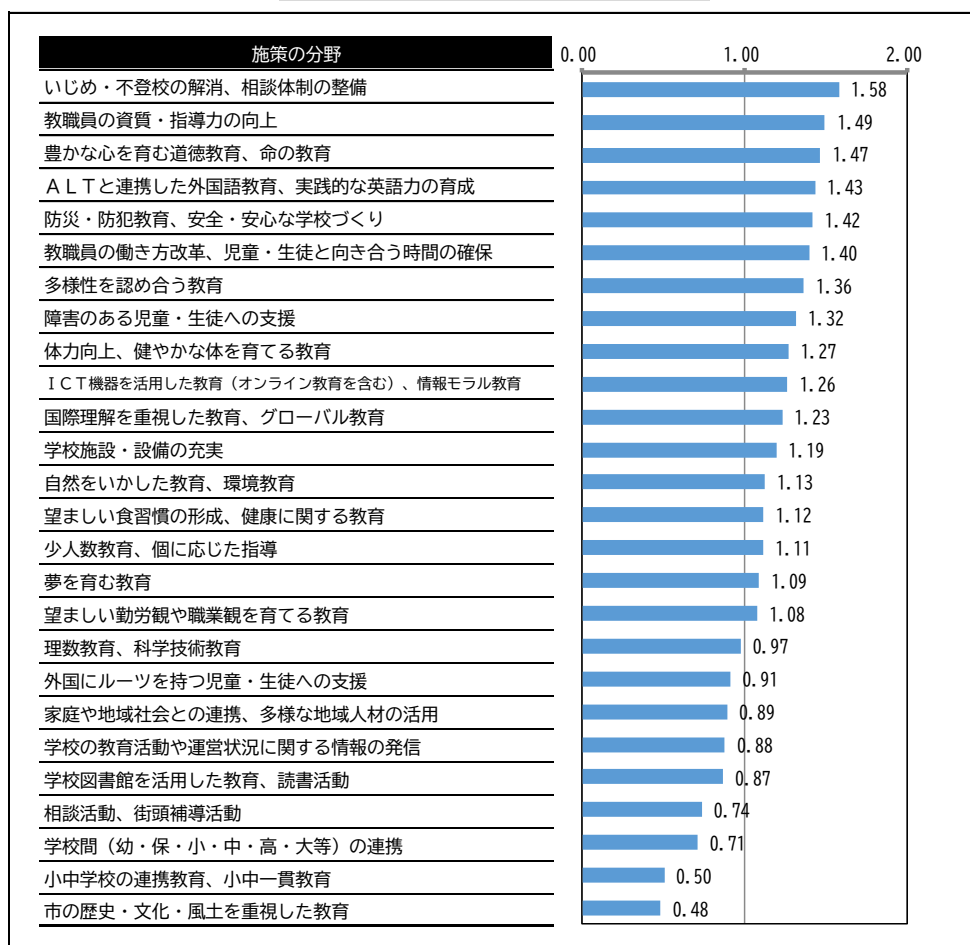
(2) 調査の結果

① 教育施策に関する結果の概要

< 保護者が「重視する施策の分野」について >

「いじめ・不登校の解消、相談体制の整備」が最も多く、次いで「教職員の資質・指導力の向上」「豊かな心を育む道德教育、命の教育」となっています。

重視する施策の分野：保護者

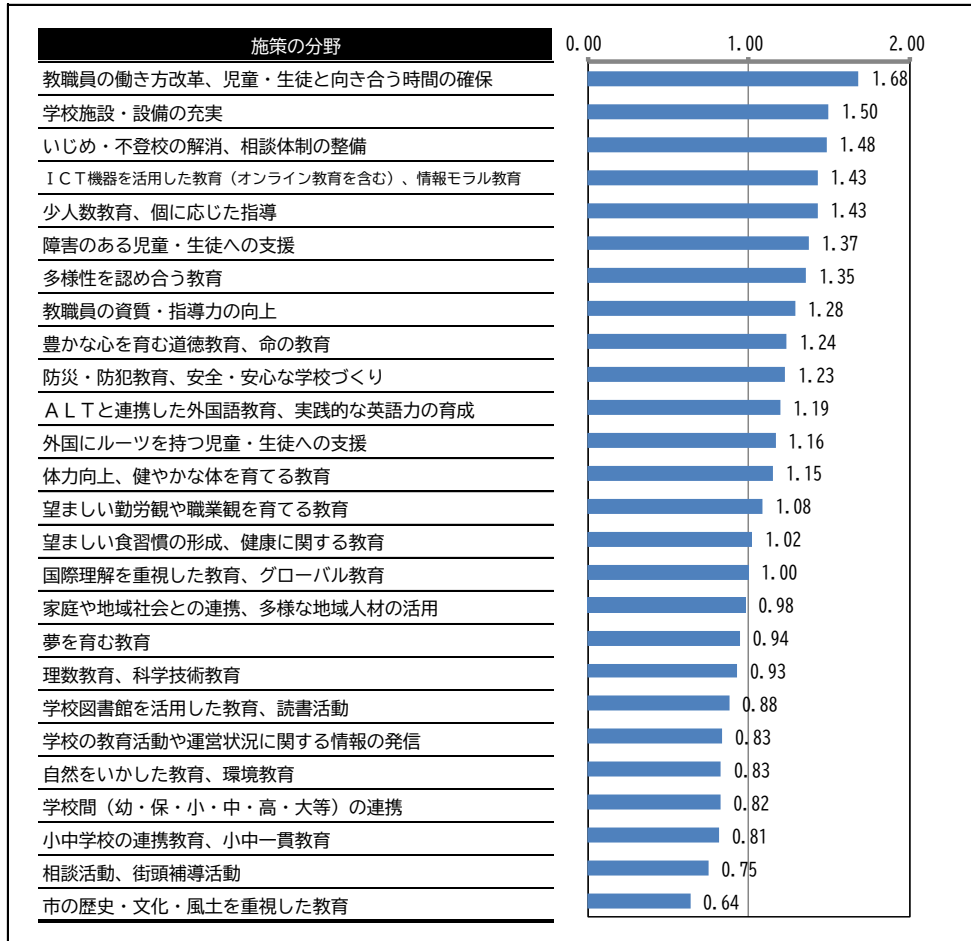


とても重要＝2ポイント、重要＝1ポイント、ふつう＝0ポイント、あまり重要ではない＝-1ポイント、重要ではない＝-2ポイントに換算して集計しています。

< 教職員が「重視する施策の分野」について >

「教職員の働き方改革、児童・生徒と向き合う時間の確保」が最も多く、次いで「学校施設・設備の充実」「いじめ・不登校の解消、相談体制の整備」となっています。

重視する施策の分野：教職員

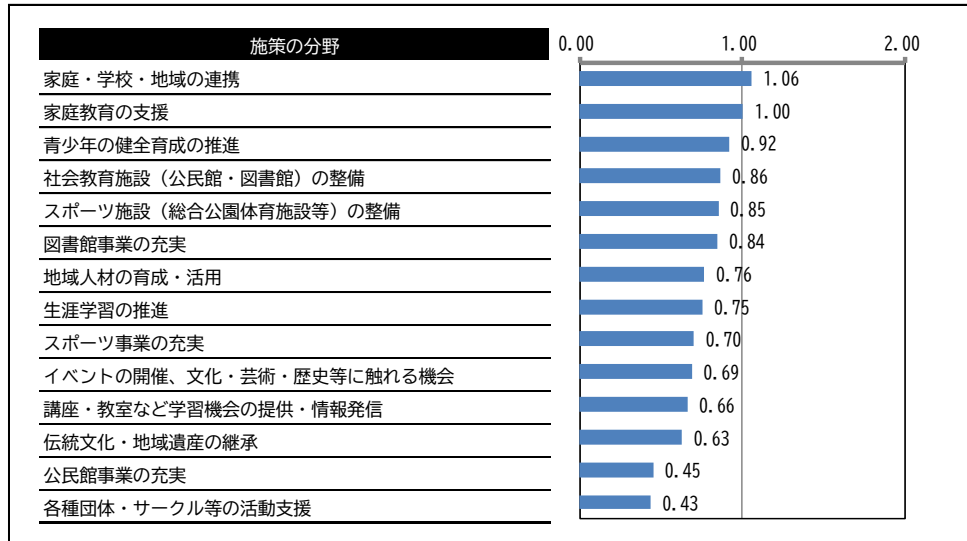


とても重要=2ポイント、重要=1ポイント、ふつう=0ポイント、あまり重要ではない=-1ポイント、重要ではない=-2ポイントに換算して集計しています。

< 市民が「重視する施策の分野」について >

「家庭・学校・地域の連携」が最も多く、次いで「家庭教育の支援」「青少年の健全育成の推進」となっています。

重視する施策の分野：市民

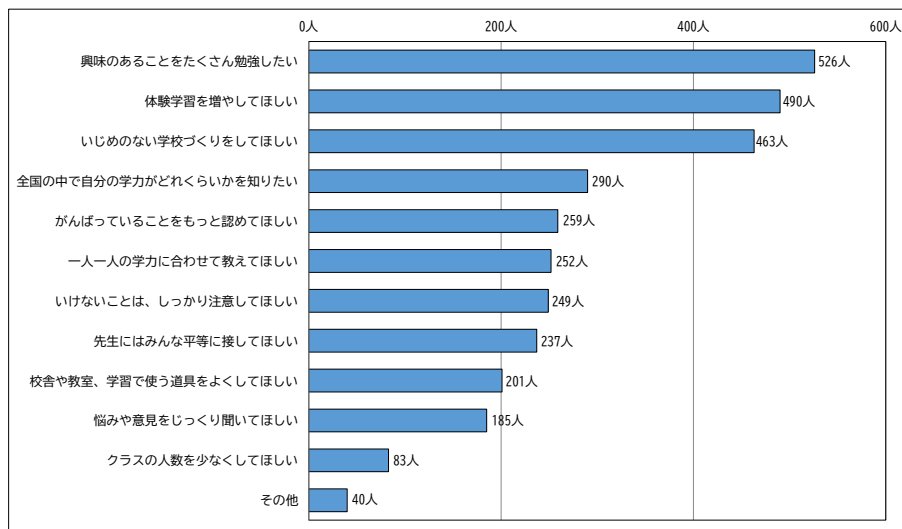


とても重要=2ポイント、重要=1ポイント、ふつう=0ポイント、あまり重要ではない=-1ポイント、重要ではない=-2ポイントに換算して集計しています。

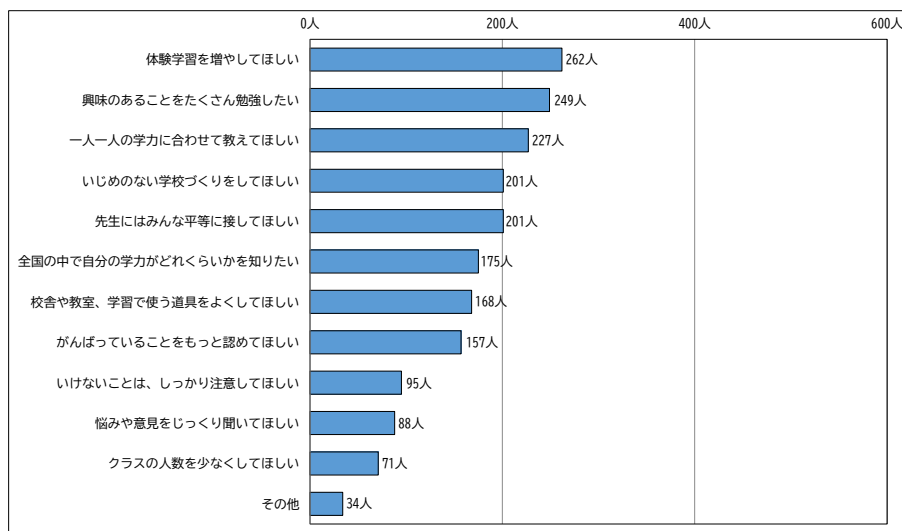
< 児童・生徒が「学校に対して望むこと」について >

児童の回答では「興味のあることをたくさん勉強したい」が最も多く、次いで「体験学習を増やしてほしい」「いじめのない学校づくりをしてほしい」となっており、生徒の回答では「体験学習を増やしてほしい」が最も多く、次いで「興味のあることをたくさん勉強したい」「一人一人の学力に合わせて教えてほしい」となっています。

学校に対して望むこと：児童



学校に対して望むこと：生徒

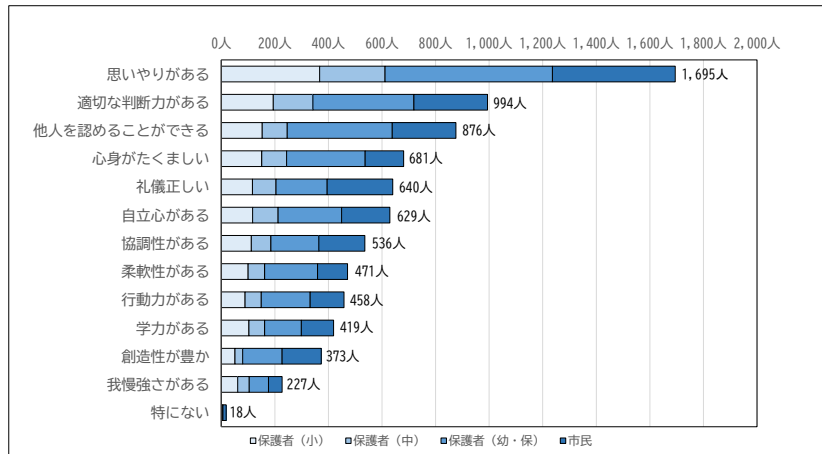


② 子どもたちの育成に関する結果の概要

< 子どもたちに「どのように育ってほしいか」について >

保護者・市民の回答では「思いやりがある」が最も多く、次いで「適切な判断力がある」「他人を認めることができる」となっています。

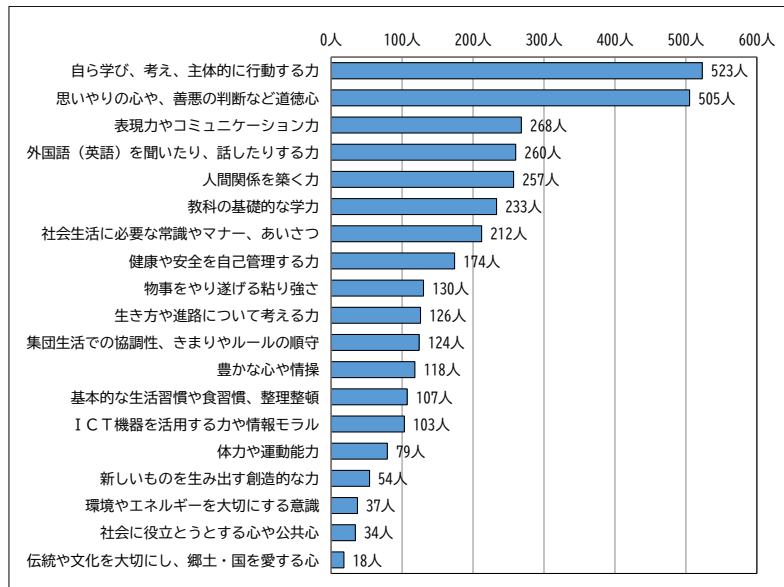
どのように育ってほしいか：保護者・市民



< 子どもたちに「身につけて欲しい能力・態度」について >

保護者の回答では「自ら学び、考え、主体的に行動する力」が最も多く、次いで「思いやりの心や、善悪の判断など道徳心」「表現力やコミュニケーション能力」となっています。

身につけて欲しい能力・態度：保護者

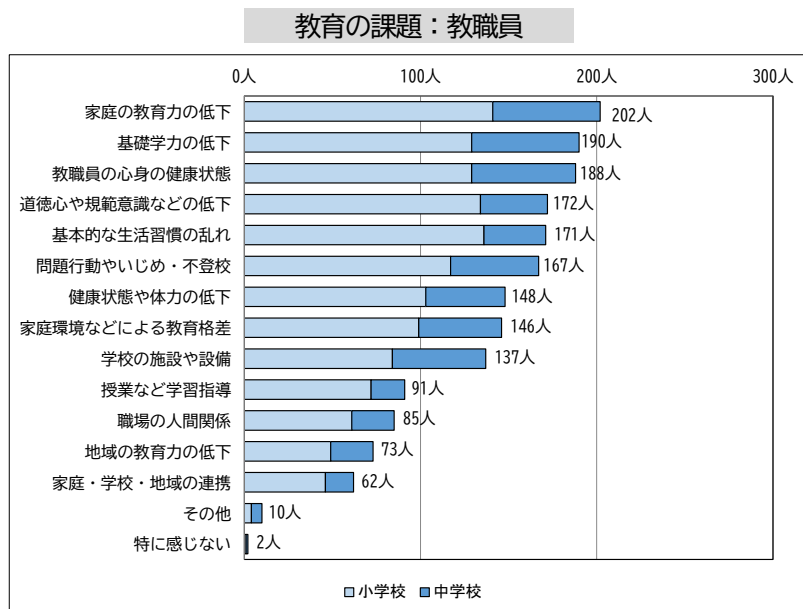
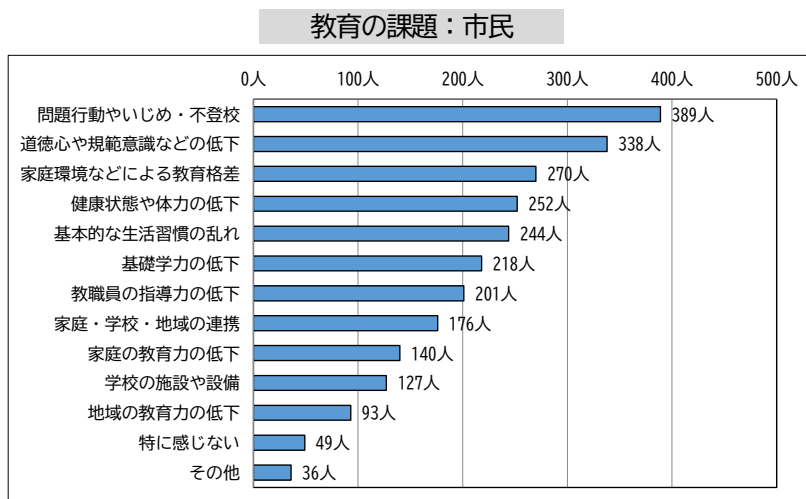


変化し続ける社会の中で、知識や技能の習得に留まらず、それらを踏まえた思考力・判断力・表現力、他者とつながる力や豊かな人間性を子どもたちに育てていくことが求められています。

③ 教育の課題に関する結果の概要

< 「教育の課題」 について >

市民の回答では「問題行動やいじめ・不登校」が最も多く、次いで「道徳心や規範意識などの低下」「家庭環境などによる教育格差」となっており、教職員の回答では「家庭の教育力の低下」が最も多く、次いで「基礎学力の低下」「教職員の心身の健康状態」となっています。

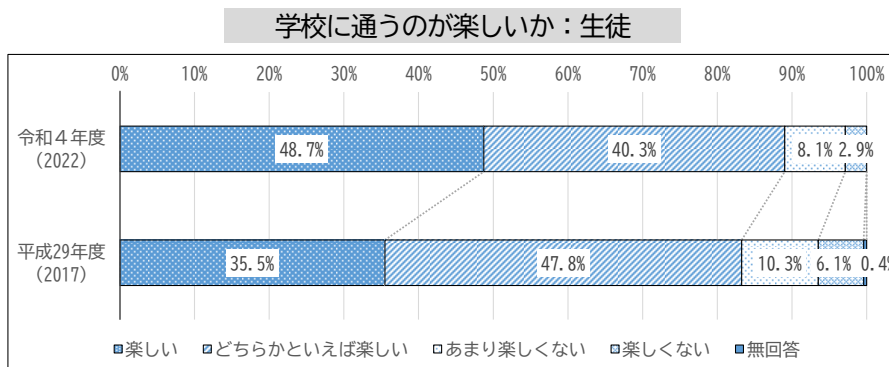
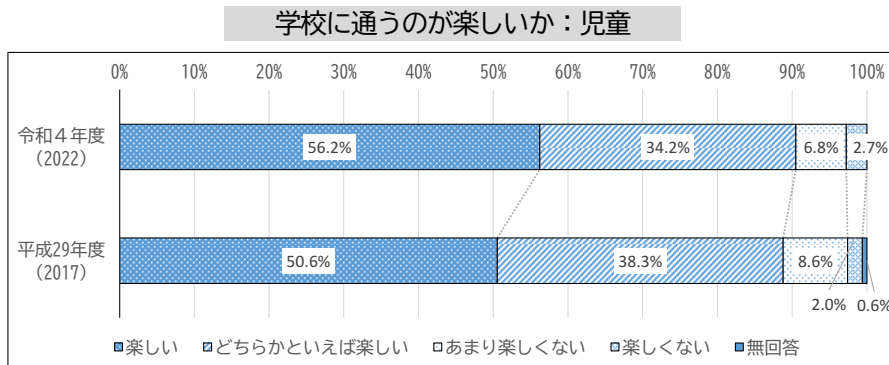


学校教育と家庭教育が相互に連携し、子どもたち一人一人に寄り添った学習環境を整えるとともに、教職員の負担軽減を図っていく必要があります。

④ 児童・生徒に関する結果の概要

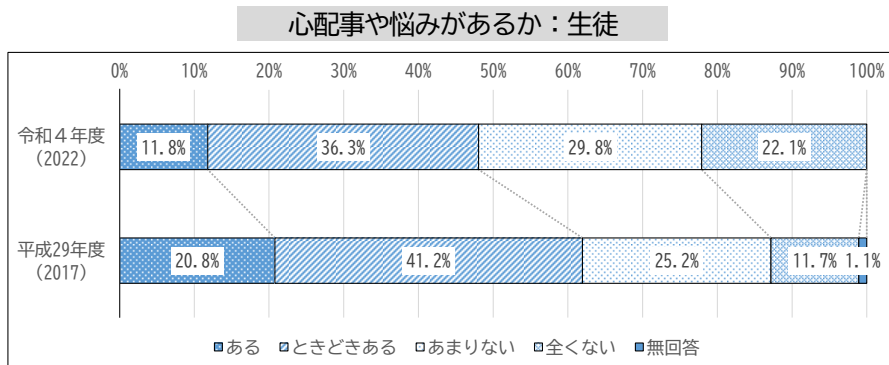
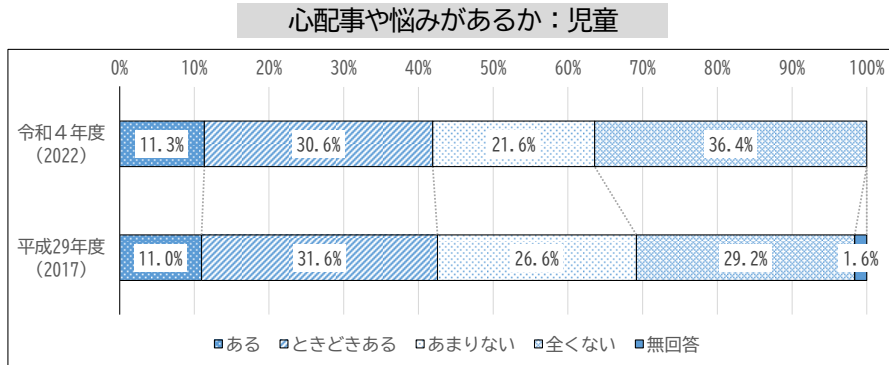
< 「学校に通うのが楽しいか」について >

「楽しい」（「どちらかといえば楽しい」を含む）と回答した児童は90.4％、生徒は89.0％でした。平成29年度の調査と比較すると、児童は1.5ポイント増加（前回：88.9％）、生徒は5.7ポイント増加（前回：83.3％）しています。



< 「心配事や悩みがあるか」について >

「ある」（「ときどきある」を含む）と回答した児童は41.9%、生徒は48.1%でした。平成29年度の調査と比較すると、児童は0.7ポイント減少（前回：42.6%）、生徒は13.9ポイント減少（前回：62.0%）しています。



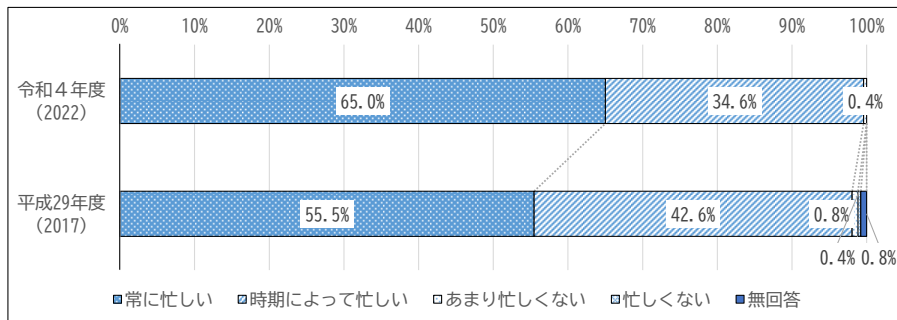
これらは、学校現場における様々な取組が着実に実を結んでいる結果であり、継続していく必要があります。

⑤ 教職員に関する結果の概要

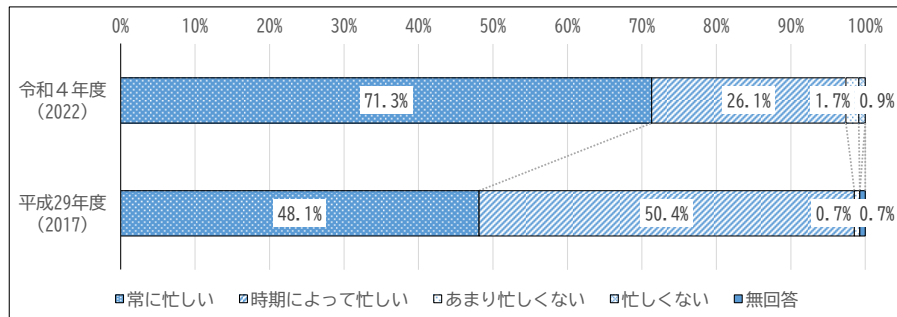
< 職務について「忙しいと感じるか」について >

「常に忙しい」と回答した小学校の教職員は 65.0%、中学校の教職員は71.3% でした。平成29年度の調査と比較すると、小学校の教職員は9.5ポイント増加（前回：55.5%）、中学校の教職員は23.2ポイント増加（前回：48.1%）しています。

忙しいと感じるか：小学校

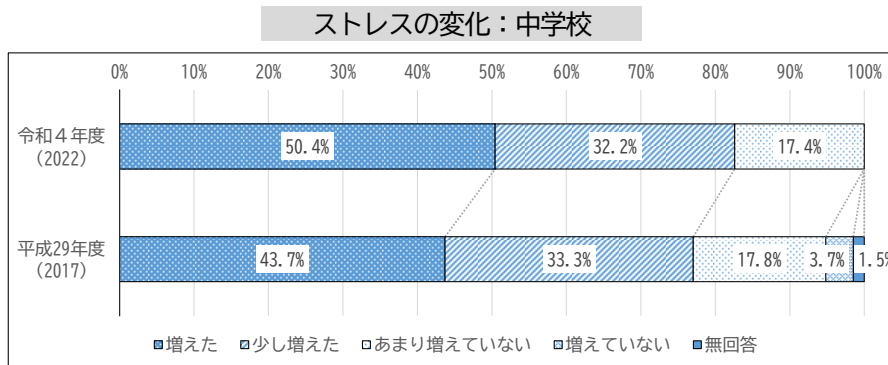
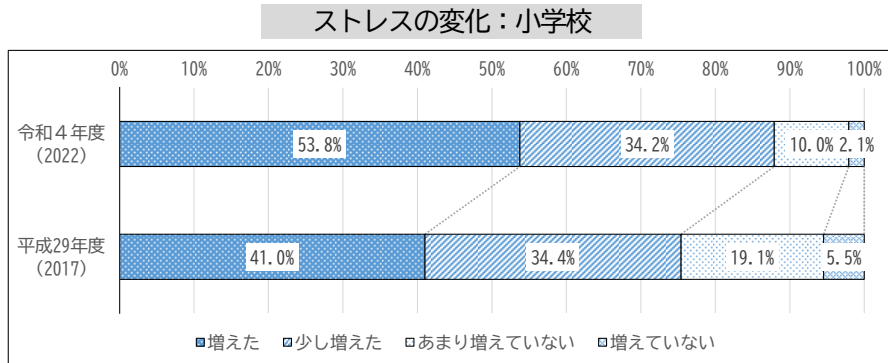


忙しいと感じるか：中学校



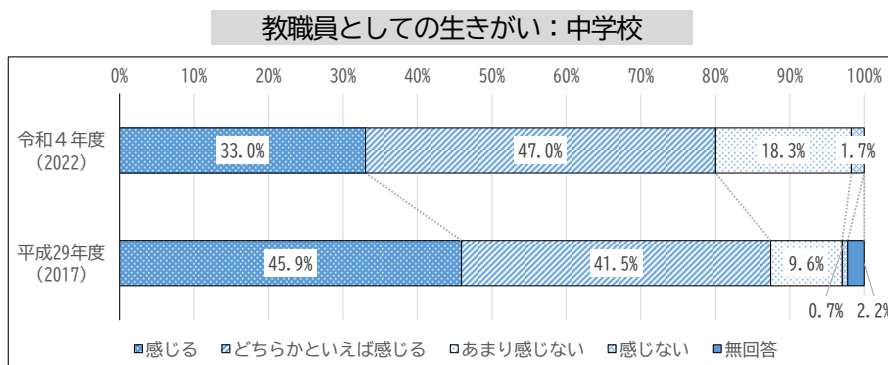
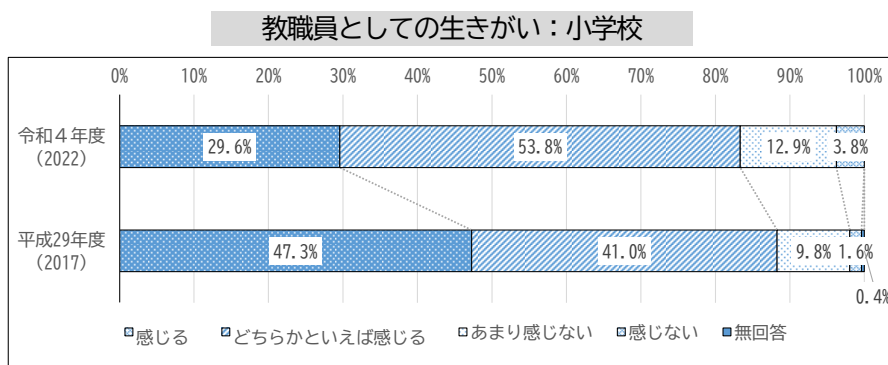
< 直近1年間での「ストレスの変化」について >

「増えた」（「少し増えた」を含む）と回答した小学校の教職員は88.0%、中学校の教職員は82.6%でした。平成29年度の調査と比較すると、小学校の教職員は12.6ポイント増加（前回：75.4%）、中学校の教職員は5.6ポイント増加（前回：77.0%）しています。



< 「教職員としての生きがい」について >

「感じる」（「どちらかといえば感じる」を含む）と回答した小学校の教職員は83.4%、中学校の教職員は80.0%でした。平成29年度の調査と比較すると、小学校の教職員は4.9ポイント減少（前回：88.3%）、中学校の教職員は7.4ポイント減少（前回：87.4%）しています。

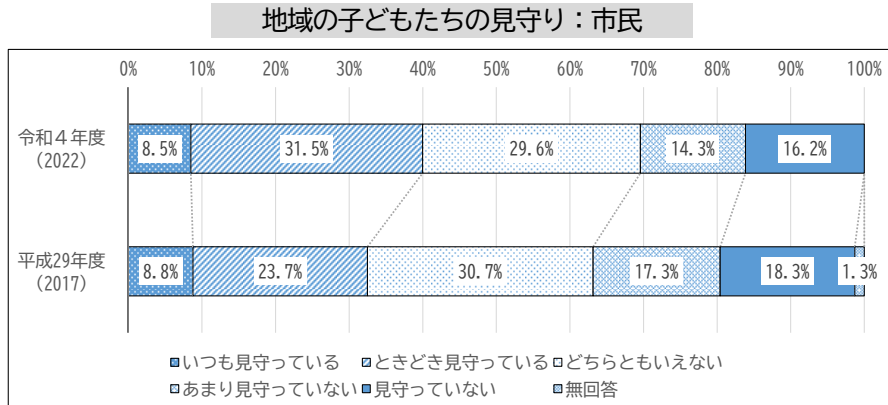


「常に忙しいと感じる」及び「ストレスが増えた」と回答した教職員の割合が増えており、教職員として生きがいを感じる割合が減っていることから、働き方改革を通じた職場改善が喫緊の課題となっています。

⑥ 家庭・学校・地域の連携に関する結果の概要

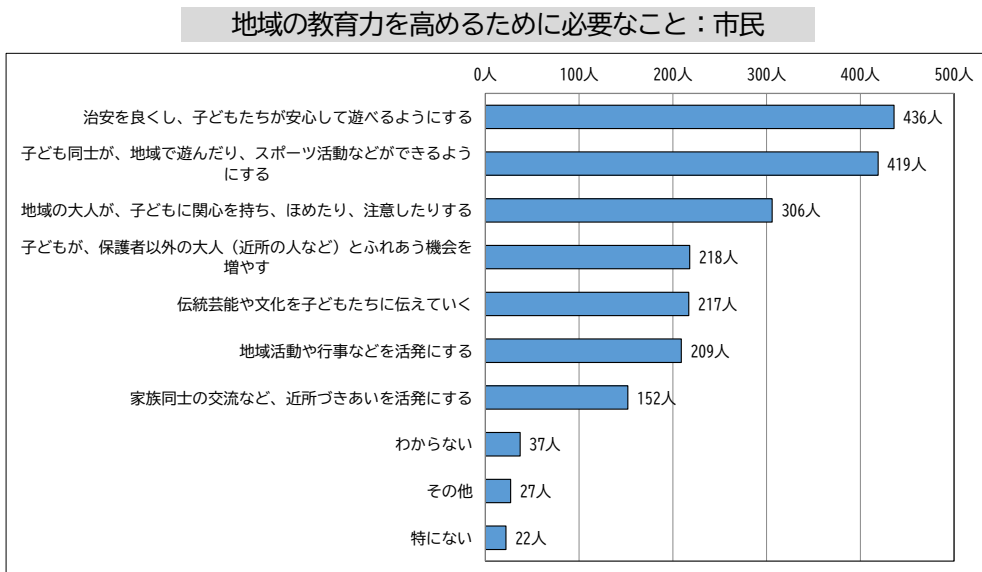
< 「地域の子どもたちの見守り」について >

「見守っている」（「いつも見守っている」又は「ときどき見守っている」と回答した市民は40.0%でした。平成29年度の調査と比較すると、7.5ポイント増加（前回：32.5%）しており、地域による子どもたちの見守りが増えています。



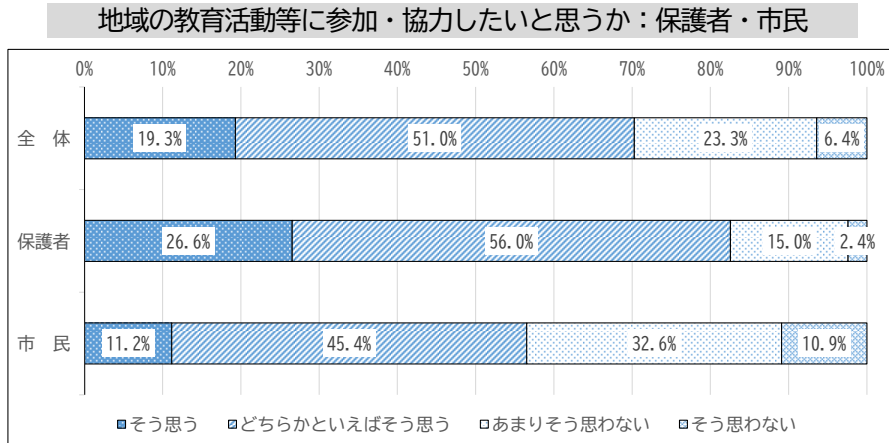
< 「地域の教育力を高めるために必要なこと」について >

「治安を良くし、子どもたちが安心して遊べるようにする」が最も多く、次いで「子ども同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」「地域の大人が、子どもに関心を持ち、ほめたり、注意したりする」となっています。



< 「地域の教育活動やボランティアに参加・協力したいと思うか」について >

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を含むと回答した保護者・市民が70.3%となっており、地域人材の育成・活用を通じて、子どもたちの健やかな成長をまち全体で支えていく必要があります。

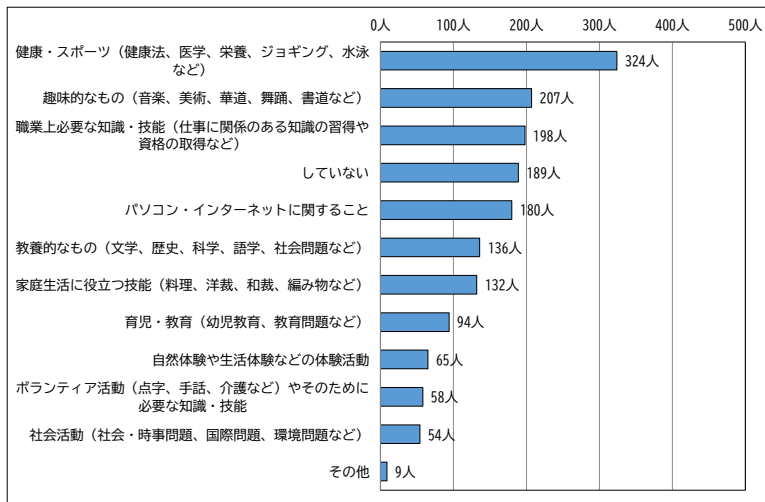


⑦ 生涯学習に関する結果の概要

< 「生涯学習」について >

直近1年間で自発的な学習活動に取り組んだことがあると回答した市民は74.6%でした。平成29年度の調査と比較すると、3.1ポイント増加（前回：71.5%）しており、自らの意思で主体的に学ぶ人が増えています。生涯学習の内容としては、「健康・スポーツ」が最も多く、次いで「趣味的なもの」となっており、コロナ禍以降、健康保持に役立つことや自宅でも楽しめる趣味的な活動への関心が高まっています。

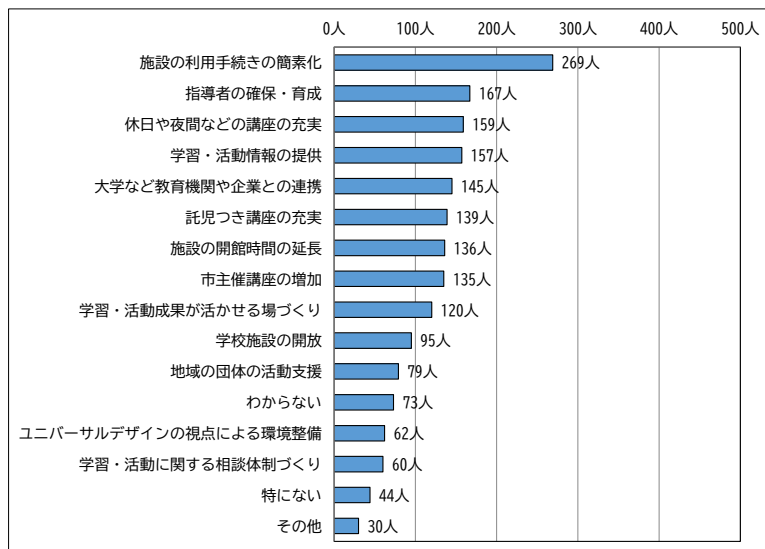
自発的な学習活動に取り組んだこと：市民



< 「生涯学習の推進に必要なこと」について >

市民の回答では、「施設の利用手続きの簡素化」「指導者の確保・育成」「休日や夜間などの講座の充実」などの回答が多くなっています。

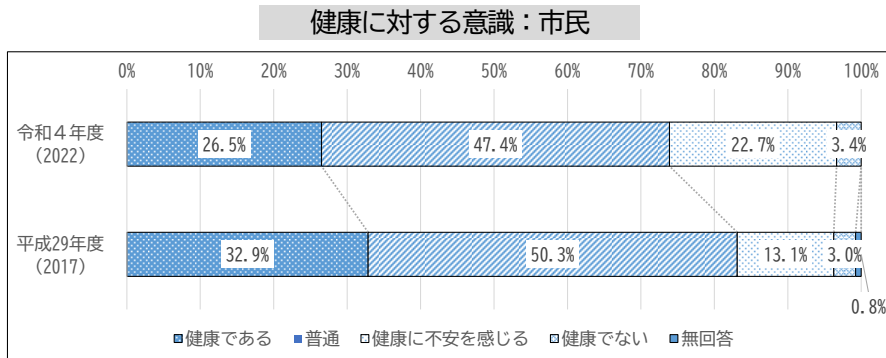
生涯学習の推進に必要なこと：市民



⑧ 健康に対する意識・運動の状況に関する結果の概要

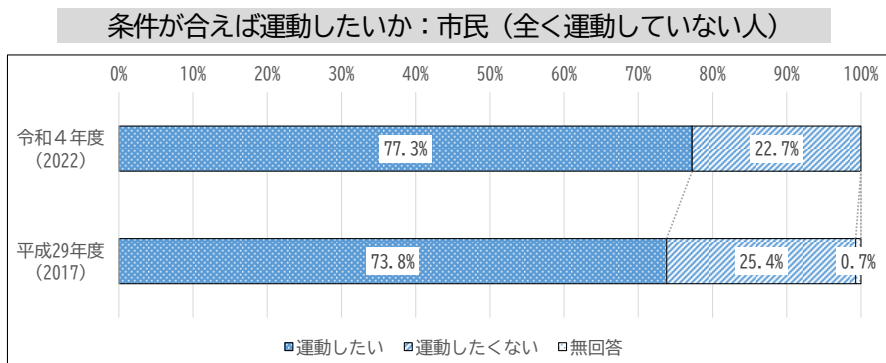
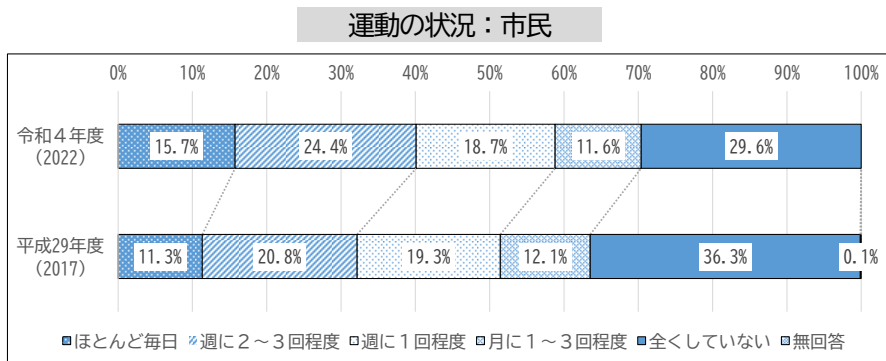
< 「健康に対する意識」 について >

「健康である」（「普通」を含む）と回答した市民は73.9%でした。平成29年度の調査と比較すると、9.3ポイント減少（前回：83.2%）しており、コロナ禍以降、健康に不安を感じる人が増えています。



< 「運動の状況」 について >

週に1回以上運動すると回答した市民は58.8%でした。平成29年度の調査と比較すると、7.4ポイント増加（前回：51.4%）しており、運動に取り組む人が増えています。また、全く運動していない人のうち「条件が合えば運動したい」と回答した市民が77.3%もいることから、運動環境の整備などに対する潜在的な需要は高いものと考えられます。

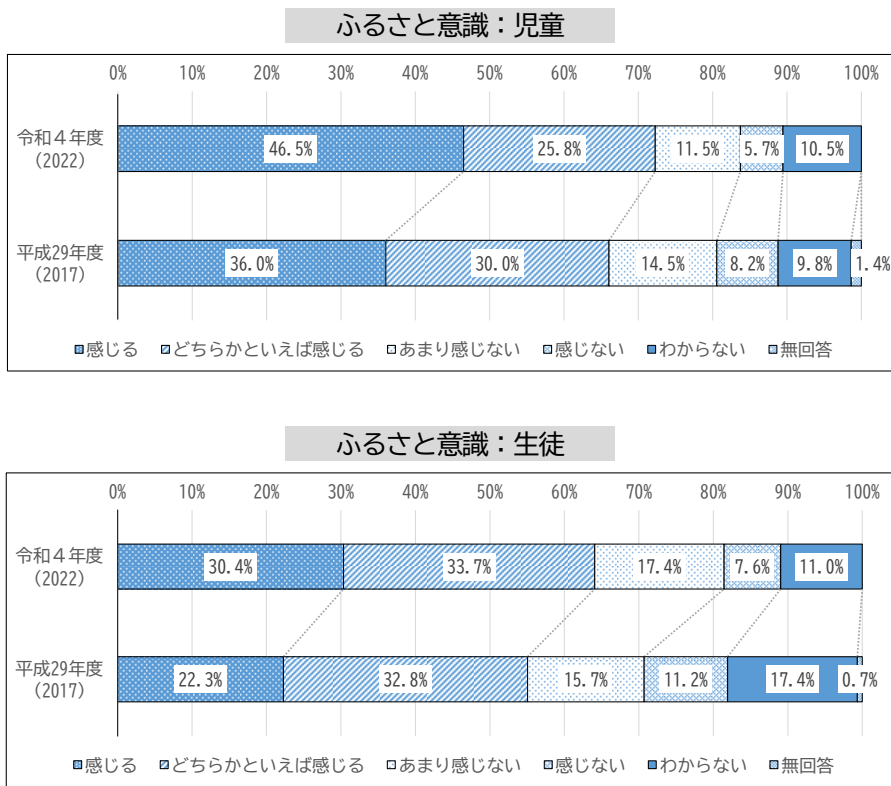


⑨ 子どもたちのふるさと意識に関する結果の概要

< 四街道市を「ふるさと」と感じるかについて >

「感じる」（「どちらかといえば感じる」を含む）と回答した児童は72.3%、生徒は64.1%でした。平成29年度の調査と比較すると、児童は6.3ポイント増加（前回：66.0%）、生徒は9.0ポイント増加（前回：55.1%）しており、子どもたちのふるさと意識は高まっています。

四街道の自然や歴史・文化を大切に思う心や愛着、共感を育むことは、持続可能なまちづくりを進める上で不可欠な取組であることから、引き続き、教育的視点を含めた郷土学習の充実に努めていく必要があります。



5. 第1期計画（後期計画）の達成状況

基本方針1

豊かな感性を育み、強い心で正義を尊ぶ、たくましい子どもを育てます

目標項目	計画策定時 (平成29年度)	現 状 (令和4年度)	目 標 (令和5年度)	達成状況
「人の気持ちがわかる人間になりたいと思う」という質問に対し、『そう思う』『どちらかといえばそう思う』	小学生 91.7% 中学生 93.5%	小学生 94.0% 中学生 96.6%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
「人が困っているときは、進んで助けますか」という質問に対し、『そう思う』『どちらかといえば思う』	小学生 84.7% 中学生 83.7%	小学生 90.5% 中学生 89.4%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
新体力テストの結果における運動能力証交付率	小学校男女 33.0% 中学校男子 15.0% 中学校女子 41.0%	小学校男女 19.2% 中学校男子 12.4% 中学校女子 25.3%	増加を目指します	小学校男女 × 中学校男子 × 中学校女子 ×
スポーツ、芸術分野での活躍した人数（国際大会等で）	2人	1人	増加を目指します	×
「学校のきまり・規則、友だちとの約束を守っている」という質問に対し、『そう思う』『どちらかといえば思う』	小学生 90.7% 中学生 94.5%	小学生 97.7% 中学生 97.7%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」という質問に対し、『そう思う』『どちらかといえば思う』	小学生 95.9% 中学生 92.6%	小学生 96.6% 中学生 94.8%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○

基本方針2

確かな学力を身につけた子どもを育てます

目標項目		計画策定時 (平成29年度)	現 状 (令和4年度)	目 標 (令和5年度)	達成状況
全国学力・学習 状況調査	基礎基本の問題 の平均正答率	小学校6年生 全国平均とほぼ同じ 中学校3年生 全国平均を下回る	小学校6年生 全国平均とほぼ同じ 中学校3年生 全国平均をやや下回る	全国平均以上 を目指します	小学校6年生 ○ 中学校3年生 ×
	活用が中心とな る問題の平均正 答率	小学校6年生 全国平均とほぼ同じ 中学校3年生 全国平均をやや下回る	中学校3年生 全国平均をやや下回る		×
千葉県標準学力検査の平均得点（各 学年各教科において）		小学生 県平均とほぼ同じ 中学生 県平均を上回る	小学生 県平均とほぼ同じ 中学生 県平均とほぼ同じ	県平均以上 を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
英語検定3級以上の取得率（中学校 卒業まで）		中学校3年生 45.0%	中学校3年生 38.3%	増加を目指します	中学校3年生 ×
英語検定3級程度の英語力を有する 率（中学校卒業まで）		中学校3年生 67.6%	中学校3年生 61.5%	増加を目指します	中学校3年生 ×
学校図書館での年間貸し出し冊数 （1人当たり）		小学校 39.9冊 中学校 9.3冊	小学校 50.1冊 中学校 8.2冊	増加を目指します	小学校 ○ 中学校 ×
「将来の夢や目標をもっています か」の質問に対する肯定的な回答		小学生 85.3% 中学生 71.0%	小学生 79.7% 中学生 68.0%	増加を目指します	小学生 × 中学生 ×
学校から帰った後、一日あたり1時 間以上勉強している児童生徒の割合		小学生 36.1% 中学生 42.0%	小学生 57.1% 中学生 74.8%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
「授業のわかりやすさ」という質問 に対して『良いと思う』『どちらかと いえば良いと思う』		小学生 84.9% 中学生 75.7%	小学生 90.2% 中学生 87.6%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○

基本方針3

教師と子どもが深い信頼関係で結ばれた学校づくりを進めます

目標項目	計画策定時 (平成29年度)	現 状 (令和4年度)	目 標 (令和5年度)	達成状況
「学校が楽しいか」という質問に対して、『楽しい』『どちらかといえば楽しい』	小学生 88.9% 中学生 83.3%	小学生 90.4% 中学生 89.0%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
不登校児童生徒の出現率（在籍児童生徒数に占める不登校児童生徒の割合）	小学生 0.47% 中学生 2.66%	小学生 1.63% 中学生 5.40%	減少を目指します	小学生 × 中学生 ×
市内教職員アンケート調査で「直近1年間でストレスが増えているか」という質問に対し「増えた」	小学校 41.0% 中学校 43.7%	小学校 53.8% 中学校 50.4%	減少を目指します	小学校 × 中学校 ×
「先生との関係」という質問に対して『良いと思う』『どちらかといえば良いと思う』	小学生 77.1% 中学生 77.2%	小学生 83.8% 中学生 85.5%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○
「学校の職員として生きがいを感じるか」という質問に対して、『感じる』『どちらかといえば感じる』	小学校 88.2% 中学校 87.4%	小学校 83.4% 中学校 80.0%	増加を目指します	小学校 × 中学校 ×
「自身の学校の児童生徒の理解度」という質問に対して、『大部分を理解している』『だいたい理解している』	小学校 87.1% 中学校 74.8%	小学校 78.4% 中学校 75.6%	増加を目指します	小学校 × 中学校 ○

基本方針4

自己実現を目指す市民の生涯学習・スポーツ活動を支援し、地域人材を育成します

目標項目	計画策定時 (平成29年度)	現 状 (令和4年度)	目 標 (令和5年度)	達成状況
生涯学習活動に取り組んでいる人	71.5%	74.6%	増加を目指します	○
公民館利用者数	163,296人 (1日当たり161人)	85,007人 (1日当たり84人)	168,700人 (1日当たり162人)	×
図書館等利用者数	109,605人 (1日当たり334人)	93,282人 (1日当たり284人)	115,000人 (1日当たり350人)	×
図書貸出冊数	358,847冊 (市民1人当たり3.3冊)	309,704冊 (市民1人当たり3.4冊)	400,000冊 (市民1人当たり4.0冊)	×
週1回以上運動する成人	51.4%	58.8%	増加を目指します	○

基本方針5

豊かな自然や先人の創り上げた伝統文化を受け継ぎ、新しい文化を創造する芸術文化活動を支援します

目標項目	計画策定時 (平成29年度)	現 状 (令和4年度)	目 標 (令和5年度)	達成状況
歴史民俗資料室等の見学者数	1,277人	649人	1,500人	×
市民芸術公演事業等の入場者数	2,309人	1,641人	4,000人	×
市民文化祭参加者数	28,420人	5,767人	29,000人	×
「四街道市を『ふるさと』であると感じるか」の質問に『感じる』『どちらかといえば感じる』と答えた児童生徒の割合	小学生 66.0% 中学生 55.1%	小学生 72.3% 中学生 64.1%	増加を目指します	小学生 ○ 中学生 ○

基本方針6

家庭・学校・地域のもつ教育力を高め合い、三者が連携する体制づくりを進めます

目標項目	計画策定時 (平成29年度)	現状 (令和4年度)	目標 (令和5年度)	達成状況
「近所の人に会った時は、あいさつをしているか」の質問に対する肯定的な回答	小学生 88.3% 中学生 80.9%	小学生 87.4% 中学生 86.5%	増加を目指します	小学生 × 中学生 ○
放課後や休日の子どもの居場所づくり	3か所	2か所	4か所	×
「こども110番の家」登録件数	2,917件	2,890件	3,000件	×
市民一人一人が子どもを見守っている	32.5%	40.0%	増加を目指します	○
「愛の一声」運動としての街頭補導活動の回数	152回	157回	160回	×
朝食を欠食する児童生徒の割合	小学生 14.9% 中学生 19.5%	小学生 12.7% 中学生 21.8%	減少を目指します	小学生 ○ 中学生 ×